

浪江の こころ通信

● 第102号 ●



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第102号」への
感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のこころ通信」宛て
FAX 0240 (34) 4593





県営表団地自治会

会長 山形 武さん(請戸)
 管理人兼庶務 佐藤 浩さん(飯館村)
 会員 志賀 康士さん(権現堂)
 会員 佐々木初雄さん(川添)



取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ古山・松田
 取材日：9月10日

表団地は、みんな協力的で、いい団地ですよ

二本松市の霞ヶ城公園の北東側にある県営表団地は、現在、33世帯が暮らすごんまりとした団地です。団地住民総出の夏祭り（8月4日開催）は、今年で2回目を迎えました。「近隣の人たちはもちろん、市内の県営根柄山団地や若宮団地、出演チームの家族など、大勢の人たちが祭りに参加してくださって、かなりのにぎわいでした」と、当日の写真をたくさん見せてくださいました。

山形会長と佐藤管理人、会員として自治会のお手伝いをされている志賀さん、佐々木さん、4人の方々に話を伺いました。



山形さん 佐藤さん 志賀さん 佐々木さん

◆東日本大震災が起きた時から、この団地に落ち着かれるまで、どのような経緯だったのでしょうか

山形さん 地震の時は船を出して、戻ってきたらなんにもなかった。役場に行っても誰もいない。どうしようかと思っていたら、軽トラックで大堀まで連れて行ってくれる人がいて、小学校と中学校に2日間ずつ。東京都の息子のところに12日間、福島県に戻ってからは津島から川俣町へ。川俣高校体育館、おじまふるさと交流館と転々としたよ。おじまふるさと交流館には1週間くらいいたかな。それから野地温泉（福島市）に1年近くいて、二本松市郭内の仮設住宅に移って、ここに来たんだ。

妻が津波で行方不明だったので、相馬市や南相馬市原町区の遺体安置所を探し歩いて、ようやく4か月後に見付かって、二本松市安達の高林寺で供養してもらったんだよ。

佐々木さん あの時は津島に避難して、すぐに都路村に移って3日間いたね。会社の仲間たちと東京都の借上げ住宅に1年ほどいて、それから6年ほど二本松市の雇用促進住宅にいて、この表団地に来たんだ。

志賀さん すぐに南相馬市原町区に避難して3日間。喜多方市

で葬式があったものだから駆けつけて、そのまま1か月くらい喜多方市にいて、それから埼玉県の姪のところへ行って20日間ほどいたかな。

その後、兄の友人の紹介で新潟県三条市の避難所に行ったんだけど、3日くらいは体育館の物干し場で過ごさなくちゃならなかったんだ、ひどかったね。三条市の雇用促進住宅で7年間過ごした後、浪江町役場から団地の情報を聞いて、ここに来たんだ。

佐藤さん あの日はいわき市の海から1キロメートル圏内のところまで仕事をしていた、すぐ目りませんでした。午後9時頃に仕事を終え、普段だったら宿泊先に15分くらいで帰れるのに、橋が通れず1時間30分くらい掛かって戻りました。夜中にラジカオを付けて初めて津波被害のひどさを知りました。そのまま1年ほど小名浜の会社で仕事を続け、その後も飯館村には戻らずに、いわき市に3年ほどいました。

震災直後、浪江町の人たちは避難所とはいえ救援物資もあつたようですが、いわき市では食べ物はおろか、飲み物さえありませんでした。お店は開いてないし、お金があっても買える物がないし、情報も来ない。ある

今年もにぎわった表団地の夏祭り



とき、いわき市の山間部に行ったら、お米を分けてくださったおばあさんがいて、それはもう有り難かったですね。家族やペットと一緒に来たのは、福島市松川町の応急仮設住宅に移ってからでした。父が亡くなった後、今は川俣町に住む祖母が寝たきりになったり、8年の間にいろいろなことがありました。

松川町で2年過ごした後、復興公営住宅をあちこち探していたところ、この表団地の抽選最終日に行き当たって入居できましたよ。そうしたら、入居説明会前に管理人就任の打診があり、迷いましたが引き受けました。

◆団地の暮らしはいかがですか、自治会の活動の様子なども教えてください
佐藤さん 団地の入居開始は平成

成29年7月。その年の10月には総会を開きました。全戸が自治会に加入しており、現在は浪江町が8割、後は大熊町や富岡町、南相馬市小高区の方々で、子供は小学生と幼稚園児の2人だけです。

今年の4月から山形さんが自治会長になり、役員も1人増えて5人で運営しています。

最初の1年は住民やペットのトラブルや駐車場の街灯のことも問題があり、結構苦労しましたが、2年経って落ち着いてきました。ただ困ったことに、総会を開いても皆さんから要望や意見が出てきません。

月1回の美化活動も約95パーセントの参加が得られているのですが、こちらもしっかりです。団地の人たちの日頃のサポートや会話がほしいと思っています。

集会所の定期的な利用は「踊りの会」の皆さんのみですが、その他、支援して下さる団体や介護福祉専門学校さんが県立安達高校と一緒に月1回の学生食堂やよさこい、健康体操や趣味の教室を兼ねたお茶会などを開いてくださっています。

山形さん 今年の夏祭りは150人、200人くらいだったかな。最初の年は集会所と周りの芝生だけで手狭だったので、今年はずま車場を会場にしたんだ。

暑かったけれど、「智恵子のふるさと太鼓保存会」や「Wonderなみえ」のよさこい踊り、ファッションショーやカラオケ、ビンゴゲーム、水風船などの出店も。結構いろいろあつたな。

祭りの前、知り合いから借りた大漁旗を団地北側の通路に飾ったら、結構インパクトがあつて、いい宣伝になったんだよ。

佐藤さん ビンゴゲームの賞品が一番人気があつたのがお米。その他の賞品も日常生活で役に立つものだったので、喜ばれましたね。でも、近隣の人たちに当たることが多くて、団地には少なかつたですね。お隣の高齢者施設「JWS陽だまりの郷」の職員さん方も来てくださって、やはり地元の方々の理解は大事ですね。来年度も、暑さ対策と食中毒に注意を払いながら、団地最大のイベントとして続けたいです。

また、団地には一人暮らしの方が多くいて、その生活が心配です。長期の入院や留守の場合の緊急対応などについても、県とも相談しながら適切な対策を取っていききたいですね。

◆最後に、ふるさとに対する思いなどを聞かせてください
山形さん 請戸にはもう何も無

くなつてしまったから、みんなと仲良く、心地よく、ここで暮らせたいね。

佐藤さん 買い物も交通も不便だし、昔のような近所付き合いや農業もできないことを考えると、飯館村には帰れないですね。早く仕事に就いて、ここで普通の生活をしたと願っています。

志賀さん 実家は南相馬市の小高にあるけれど、今のところはここで暮らしますよ。

佐々木さん 左官屋として仕事をしながら小高や大熊町、浪江町と住まいを移してきたけれど、この団地で楽しく暮らしますよ。



▲インタビュー風景